



『親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息』をいただいて (一)

千葉 乘 隆 (ちば じょうりゅう)

今年の一月九日の親鸞聖人の御正忌報恩講の初日に、ご門主さまより『親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息』が發布されました。このご消息は、ご門主さまが私たち浄土真宗の僧侶・門徒一人ひとりに宛ててお書きくださったお手紙です。

ご消息、すなわちお手紙によるご教化は親鸞聖人にさかのぼります。

聖人は東国で二十年余り伝道されたのち、京都に帰られました。それ以後は東国の門弟をお手紙によってご教化されました。現存するそのお手紙四十三通は「親鸞聖人御消息」と題し『浄土真宗聖典』に収録されています。

聖人のお手紙の大半は、教義についての疑問などを、懇切に説き示された内容です。

たとえば、聖人八十八歳の文応元年(一二六〇)十一月十三日に、常陸国奥郡(茨城県北部)の乗信房に宛てたお手紙に「なによりも、去年・今年、(大飢饉と悪疫で)老少男女おほくのひとびとの、死にあひて候ふらんことこそ、あはれに候へ。ただし生死無常のこわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ。まづ善信(親鸞)が身には、臨終の善悪をば申さず、信心決定のひとは、疑なければ正定聚(浄土に往生することが正しく定まる)に住することにて候ふなり。さればこそ愚痴無智の人も、をはりもめでたく候へ。如来の御はからひにて往生するよし、ひとびとに申され候ひける、すこしもたがはず候ふなり。…」(『註釈版聖典』七七頁)とあります。

こうして晩年の聖人は、東国門弟とお手紙を通して仏法を語られ心を通わされたのでした。



本願寺第八代蓮如上人も親鸞聖人を見習われて、お手紙による教化を試みられました。

それは上人が継職して四年目、寛正二年(一四六一)は親鸞聖人の二百回忌に当たる年の三月、上人は近江(滋賀県)金森の道西(善従)に宛てて仏法についてのお手紙を書かれました。

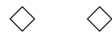
親鸞聖人二百回忌の前後の年には日本列島を大飢饉が襲い、「世上三分の二餓死に及ぶ」(『長祿寛正記』)と、人口(推定二千万人)の三分の二が餓死したといわれます。上人は、飢饉に苦しみ食物を奪い合う人びとの悲惨な姿をみて、いったいどうしたらよいか、自分に何ができるのか、と深刻になやまれたようです。その結果、お念仏を説きすすめる以外に道はないとお気づきになりました。蓮如上人のお手紙は「御文」(本願寺第十四代寂如上人のとき「御文章」と改称)といわれ、この道西宛のお手紙は「筆始めの御文」と称されています。

その「筆始めの御文」の中で、親鸞聖人の説かれる教えは、いかに罪深い人であろうと、また妄念妄執のころの止まぬ人であろうとも、阿弥陀如来の本願をきき、一心に疑いなく如来をたのむ心が起こるとき、如来は

ただちに光明を放って、その人を救いとり、浄土に生まれるまで護ってくださるといふ「一念発起、平生業成」を強調されたのでした。

これ以降ご往生の前年の明応七年（一四九八）十二月にいたるまで、三十七年間に蓮如上人がお書きになった「御文」の総数は二百数十通に達します。

蓮如上人以後の本願寺歴代ご門主さまも、お手紙（ご消息）によって宗祖聖人の御遠忌の勤修、御影堂・阿弥陀堂など堂舎の造立や修理への協力の依頼、ご法義の宣説や異義の是正など、さまざまな事柄について、ご懇篤に説き示されています。



十一月二十八日（新暦一月十六日）の親鸞聖人の御正忌法会を「報恩講」と称するのは、永仁二年（一二九四）の聖人の三十三回忌からです。それまで聖人の御正忌は「二十八日の御念仏」と称していました。

その法会にあたり、本願寺第三代覚如上人は『報恩講式』を著わして法会の勤式を定められました。またその翌年、永仁三年には親鸞聖人のご生涯の行状を描いた「親鸞聖人伝絵」を作製されました。この伝絵は絵巻物でしたので、限られた人しか拝見できませんでした。そこで後年、これにならって伝絵を製作する際には、「詞書」（御伝鈔）と「画図」（御絵伝）とに分け、画図は掛幅にして多人数が同時に拝見できるようにしました。やがて報恩講には「御絵伝」を掛け、「御伝鈔」の拝読が行われるようになりました。

聖人の御遠忌について、百回忌を勤修したという記録は見当たりません。二百回忌は蓮如上人の時代で、十一月のご命日に七日間勤修されましたが、大飢饉のために参勤の僧はわずか二十六人、参詣人は五、六十人であったということです。二百五十回忌は永正八年（一五一一）第九代実如上人の御時、山科本願寺の御影堂は参詣人で充満したということです。以後五十年ごとに遠忌法要が勤修されてきました。そして第十一代顕如上人の永禄四年（一五六一）三百回忌以降は、参詣人に配慮して気候のよい三月に勤修するようになりました。

（本願寺史料研究所長）